

多文化共生への橋がけ

—新聞記事のやさしい日本語書き換えを通して—

兵庫県立伊川谷高等学校 校長 衣笠 正人
主幹教諭 福田 浩三

1. はじめに

R 4 年 12 月末における在留外国人は 307 万 5123 人（法務省在留外国人統計より）であり、日本の人口約 12475 万人（R 5 年 1 月 1 日、総務省統計局人口推計より）のおよそ 2.5%（40 人に 1 人）となる。この割合は今後増加が予想される。このため在留外国人とのコミュニティ作りや災害時や就学に関わる言語面での支援の充実は急務であると考えます。

筆者は、これまで NIE 実践を通して生徒に

- ・幅広い分野における興味関心を高める
 - ・情報の真偽を含め整理し理解する能力を得る
 - ・効率よく効果的に情報を発信する能力を得る
- など、今後のグローバル化・情報化社会に必要なコミュニケーション能力を生徒が獲得することを目指してきたが、近年在留外国人とのコミュニケーションに効果が期待される「やさしい日本語」を取り入れることで、生徒に多文化共生・国際理解を意識付けるよう心がけることとした。

2. 本校の NIE 実践

本校における NIE 実践を表 1 に示す。

実践対象を全校生徒（全）・学年生徒（1 学年は①、3 学年は③）・1 年コミュニケーション類

表 1 伊川谷高校の NIE 実践計画

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
NIE 実践 内容	a. 日刊紙各紙の設置		全	全	全		全	全	全				
	b. 朝日中高生新聞の配布	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①
	c. 学年通信の配布	①	①	①	①		①	①	①	①	①	①	①
	d. 感想文のはがき新聞活用		①	①		①		①		①		①	
	e. 神戸新聞の購読			コ									
	f. 新聞読み方講座		コ	コ	①					コ			
	g. ひょうご新聞感想文コンクール					コ							
	h. やさしい日本語講演会						①③						
	i. やさしい日本語書き換え講座						コ	コ					
	j. 夜間中学校との交流						コ						

型生徒 30 名（コ）に分け、それぞれに合わせた実践を行った。

a. 日刊紙各紙の設置（全・6 ヶ月）

生徒が登校時に目にする生徒昇降口に NIE 実践指定校として提供される新聞（時期により 3 紙または 6 紙）を、各紙記事の取り扱いが比較できるよう「今日の朝刊 1 面」として掲示した（図 1）。各紙は毎日取り置きを行い、部数が揃った段階で学年の生徒への NIE 実践に活用した。



図 1 日刊紙 1 面の比較掲示

b. 朝日中高生新聞の配布（①・週 1 回）

1 学年の生徒全員に「朝日中高生新聞（週刊）」を毎週配布し、朝の読書の時間（8:25～8:40）の読み物として活用した（図 2）。本紙は紙面サイズが日刊紙に比べて小さく、内容も中高校生向きに読みやすくまとめられているため、生徒の新聞に対する固いイメージの軽減に役立った。



図 2 朝の読書を利用した新聞購読

c. 学年通信の配布（①・週1回）

筆者が教師と生徒・保護者の連携した教育活動の実践を目指して研究を行っている学年通信（図3 以後、固有名詞の「学年通信」と表す）を1学年の生徒に毎週配布した。学年通信は日刊紙を模したデザインにて生徒の身近な活動を新聞形式で伝えるために、これも生徒の新聞に対する固いイメージの軽減に役立った。



図3 日刊紙に模した学年通信

d. 感想文のはがき新聞活用（①・学校行事毎）

新聞の持つ表現力を生徒に意識づけるため、校内行事ごとに課している感想文にはがき新聞を活用した。生徒は感想文を複数の内容に分け、見出しや絵を加え配置を考えることにより読み手に伝わりやすい表現を心がけていた（図4）。



図4 はがき新聞による生徒感想文

e. 神戸新聞の購読（コ・4日間 [6/19~22]）

1年コミュニケーション類型生徒 30 名が

朝の読書の時間の読み物として神戸新聞朝刊を4日間購読した。この新聞は新聞読み方講座においても活用し、気になった記事について切り抜きし、「ひょうご新聞感想文コンクール」用の記事とした。この記事は2学期に実施の「やさしい日本語書き換え講座」においても活用した。

f. 新聞読み方講座

（コ+①・4回 [5/16・23、6/20、7/12]）

1年コミュニケーション類型生徒 30 名を対象に3回、外部講師による新聞読み方講座を実施し、新聞の持つ網羅性・一覧性・信頼性など新聞の持つ社会的役割や記事見出しの重要性について学習し、以後新聞を読む際に役立てた。また、新聞から読み解く国際理解・SDGsについても考えた。4回目は筆者が講師となり、1学年の生徒全員に対し、新聞における見出しの役割の重要性を伝える講演を行い、筆者掲載の過去記事を用いた見出し付け実践を行った（図5）。



図5 見出し付け実践講演の様子

g. ひょうご新聞感想文コンクール

（コ・夏季休業課題）

コミュニケーション類型の1年生 30 名を対象に、夏季休業課題として各自が読んだ新聞から最も興味・関心をもった記事を選び、その感想文を作成することで、新聞に対する興味・関心を高める試みを行った。生徒は感想文の作成から、相手に伝わる文章の表現等について考えた。提出された感想文は授業担当者が校内選考を行い、2つの作品を「第14回ひょうご新聞感

想文コンクール」に応募した。コンクール応募という目標を持たせることで、生徒の感想文作成にかかる意欲を高めるねらいがあった。

h. やさしい日本語講演会 (①③・1回 [9/5])

外部講師による「やさしい日本語」の講演会を行うことで、在留外国人とのコミュニケーションのみならず、日常会話においても母語である日本語について考え直す機会とした。この講演会は1学年に加え、3学年も一緒に聴講した(図6)。



図6 やさしい日本語講演会の様子

i. やさしい日本語書き換え講座

(コ・5回 [9/12・19・26、10/3・10])

1年コミュニケーション類型生徒 30 名を対象に、これからの社会のグローバル化を見据え、生徒が日常的に、小さい子どもや日本語を母語としない他者の観点で日本語を捉えることを目的として「やさしい日本語」を用いた新聞記事の書き換えを行った(図7)。



図7 新聞記事書き換えの様子

生徒が興味を持った新聞記事(「ひょうご新聞 感想文コンクール」応募用に応じた記事)を書き換え記事として活用し、「やさしい日本語」を

用いるだけでなく、A5用紙という制約の中でより読み手に内容が伝わるようなまとめの工夫を行い、最後にその発表まで行うこととした。

初回は前述の「やさしい日本語講演会」を元に、文章の「やさしい日本語」を用いた書き換え演習を行い、2～4回目で生徒は選んだ新聞記事を元に、その伝えたい内容や要約として必要な箇所を選び出し、その内容を「やさしい日本語」を用いてA5用紙にまとめ直した(図8)。この際、新聞紙面を参考に、より内容が伝わりやすくなるように見出しや文言、紙面レイアウト等について検討した。書き換え作業は班内での意見交換や ICT を効果的に活用した。

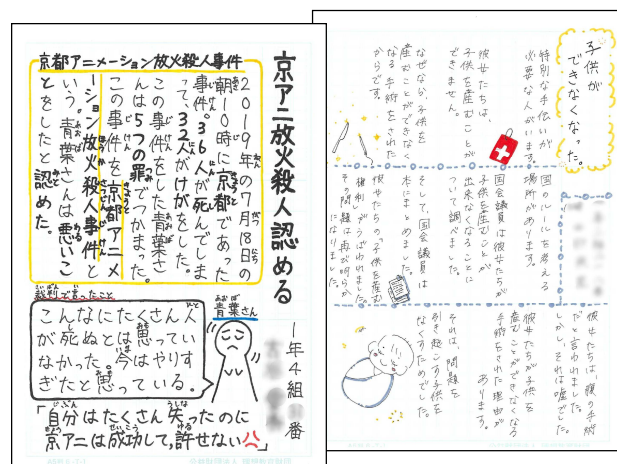


図8 生徒の書き換えた作品

最終回となる5回目は、まとめ直したA5紙面を用いて、生徒各自が興味を持った新聞記事の発表を行った。初めに班内発表を行い各班より代表者を選出し、その代表者がプロジェクタで拡大提示された自作品の紙面を用いて全体発表を行った(図9)。

発表で生徒は記事の興味を持った点に触れながら書き換え記事の読み上げを行い、書き換え時の工夫点などを説明した。

※兵庫県 NIE 推進協議会の公開授業として実施。

3. 国際理解教育への発展



図9 全体発表の様子

「やさしい日本語」の学習を通して多文化共生に興味を待った生徒を対象に、NIE 実践指定校として新聞を活用した日本語教育にも力を入れている地元夜間中学校の生徒との交流を行った。当校は在籍生徒の8割が外国籍であり、本校の生徒4名が来校し、「やさしい日本語」活用を実践した。その内容は、同校教師手製のすごろくについて同校生徒と共に行う中で、本校生徒がルールの説明や進行役を担い、そのコミュニケーションにおいて「やさしい日本語」を活用した（図10）。



図10 夜間中学校との交流

4. まとめ

新聞による情報収集は、SNSのような情報の偏りもなく、その網羅性・一覧性から新たな気付きや学びを得ることができる。本実践ではその気付きや学びを他者に伝える目的でA5サイズのはがき新聞を作成した。その際に生徒は多文化共生社会を意識して「やさしい日本語」を使用した。

自身が他者に伝えたい事柄を、限られた紙面にてより伝わりやすい表現に変換する。これは日常における他者とのコミュニケーションにおいても常に念頭に置くべき重要な点といえる。

生徒は本実践における感想にて、

- ・難しい言葉を使おうとせず伝えていきたいなと思いました。
- ・あいまいな表現を避けて話す。
- ・小さい子にも役立つと思いました。

など、日常におけるコミュニケーションに対する意識の変化を述べていた。

今後は、これまでのNIE実践を多文化共生・

国際理解の導入と捉え、実生活に即した活用にもまで発展させていく予定である。

<参考> 新聞アンケートの実施

朝日中高生新聞の配布（本報告2. b）に対する生徒の反応を調査するため、R6年1月に1学年の生徒を対象にアンケートを行った（図11）。その結果（図12）より、生徒の身近に新聞を読む環境を整えることがNIEにおいて重要であることが分かる。

【1】朝日中高生新聞を読むのは楽しみですか。

1. とても楽しみである 2. 楽しみである 3. あまり楽しみでない 4. 楽しみでない

【2】朝日中高生新聞は、どれくらい読んでますか。

1. しっかり読む 2. 気になる記事を少し読む 3. 少し捲る程度 4. 読んでいない

【3】2年生になっても、朝日中高生新聞を読みたいですか。

1. とても読みたい 2. 読みたい 3. あれば読む 4. 読みたくない

【4】自宅では新聞を購読していますか。

1. 神戸新聞 2. 毎日新聞 3. 朝日新聞 4. 読売新聞
5. 産経新聞 6. 日本経済新聞 7. 他の新聞 8. 購読していない

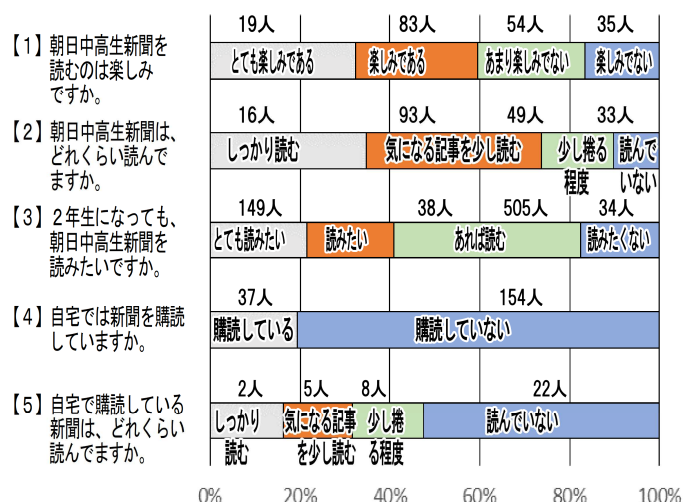
【5】自宅で購読している新聞は、どれくらい読んでますか。

（【4】で1～7を答えた人のみ回答）

1. しっかり読む 2. 気になる記事を少し読む 3. 少し捲る程度 4. 読んでいない

【6】その他、ご意見ご感想がありましたらお書き下さい。

図11 新聞アンケートの質問内容



※有効回答数 191

【4】については選択肢1～7の回答を「購読している」として集計した。

図12 新聞アンケートの回答結果